

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 3 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171200393		
法人名	有限会社 介護社		
事業所名	グループホーム 助一みのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市森山町5丁目23番3号 (電話) 0574-23-0823		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 16 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 14.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	30,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 250 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 16 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 60 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木沢記念病院、土屋クリニック、カモ歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設3年目を迎えたこのホームは市の中心部からやや離れた高台に位置し、100坪の広い庭をもつ2ユニットの平屋建てである。すぐ隣の高校から吹奏楽の音も聞こえる環境の中で、利用者はゆったりと過ごしている。畑と庭を囲む歩道はおよそ100mほどあり、散歩や日光浴等、個々の好みに合った暮らしをのびのびと堪能している。代表者は福祉の専門畑ではないが、福祉の情熱にあふれ、その熱意に動かされ同調した管理者と職員が理念に添ったケアを日々行っている。利用者には、限界まで慣れ親しんだホームで過ごしてもらいたい、と考える代表者・管理者は、ケアの延長線上にある重度化を予想し、ホーム内に看護師を配置して万全を期し、同法人の訪問看護師とも連携して利用者と家族の心を支えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は、「地域との付き合い」「思いや意向の把握」であったが、運営推進会議内で活発に意見が出るようになり、思いや意向の把握のためのシートも充実され、ホーム全体で積極的に改善するよう取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の実施にあたっては、職員から聞き取り、また、意見を求め、管理者がまとめ上げ、サービスの向上に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議ではホームの行事案内や報告などに留まらず、幅広い立場からの積極的な意見も多く出ている。地域住民からは、地域で暮らす高齢者の対応の相談などもあり、会議が行政と地域の直接の話し合いの場としても活用され、ホームの理解のみならず、地域に暮らす認知症高齢者の理解にも貢献している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情窓口は数箇所設けられ、意見箱も設置されている。訪問の少ない家族の要望を受け止める為に家族アンケートの実施も検討され、家族の意向を運営に活かそうと図っている。担当職員から利用者の普段の様子や暮らしぶりなどの状況報告、また、本人の自筆による一言、ホーム便りなどを送るなど、こまめに報告する体制ができており、家族の安心感を得ている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域との交流は徐々に進んでおり、今年度は代表者が自治会長であることから、地域の人も気軽に足を運び野菜を持ってきてくれたり、ロコミでボランティアが増えたりと、地域交流は日を追って深くなっている。災害時にホームを開放して欲しいとの住民からの要望を代表者が快く受けたとの経過もある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつでも、同じ援助・同じ介護・笑顔で」という理念の中に地域密着を明確に表す文言はないが、住民が相談にホームを訪れたり、介護保険の使い方を聞きに来たりと、地域に溶け込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所内に掲示しており、毎月の職員会議や日々の申し送りなどできめ細かく確認し合い、日常のケアが常に理念に沿ったものになるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が自治会長を務めていることから、掃除等地域の活動には積極的に参加をしている。住民のロコミや職員の知人によるボランティアが増えたり、住民が畑の野菜を持ってホームに遊びに来たりと、地域と気軽に声を掛け合える関係ができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を通して改善へ、との意識はあり、今回の自己評価は管理者が職員に聞き取りをして作成をしたものである。	○	評価の作業を通して小さな気づきや発見を日々の支援に結びつけることができるよう、全職員に小項目を配布したり、話し合いを行うなど、全職員の自己評価への参画に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月に開催され、行政・民生委員・自治会・医師・家族代表など多くの参加がある。ホームの経過報告に留まらず、高齢化が進んできた自治会や民生委員からも様々な意見があり、行政と地域の話し合いの場としても活用されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のネットワーク会議に参加し、情報交換を行っている。	○	市の担当者が変わったこともあり、良好な関係性の構築はできていない。ホーム側から行政へ、積極的に訪問や働きかけを行い、高齢者介護の課題解決に向け、共に地域を支えていけるような行政と一体になった協働を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりに担当者が付き、家族の訪問時や電話で説明や報告を行っている。毎月の便りには本人自筆のひと言も添え、家族の喜びと安心感を得ている。担当者が拾い上げた日々の生活の様子を報告している。さらに、詳細な健康状態も報告する計画がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱が玄関に設置してあるが、意見は直接ホームに届くことが多い。訪問が少ない家族の意見や要望を汲み取る為、家族アンケートの実施や健康状況報告などの計画もあり、利用者、また、家族にとってより良いホームへ、との高い意識がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「働く職員があつてこそ」と言い切る代表者の情熱や、管理者の心配りによって職員の離職は極めて少なく、年齢も様々な職員が伸び伸びと働いている。慣れ親しんだ職員のケアにより、利用者の体調も落ち着いた人が多く、介護度が軽くなり、自宅に戻った人もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の段階や希望に応じ、勤務調整を行って積極的に参加できる取り組みをしている。研修は勤務扱い・ホームの費用負担とし、職員が意識を高く持ってチャレンジできるよう配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のネットワーク会議に出席したり、管理者の個人的な付き合いにより、連絡や交流を行っている。	○	地域的に同業者も少なく、難しいとは思われるが、他ホームとの交流申し入れなどを市行政の協力を得ながら、グループホーム同士で抱える課題や職員の交換研修・相互訪問などを通し、サービス水準の向上に取り組まれることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には事前の面談や生活歴の聞き取りなどを入念に行っている。食費のみの体験入居ですでに利用者している人とも馴染み、円滑なサービスの提供ができるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の「同じ介護を受け、笑顔で」の通り、利用者は穏やかな表情である。利用者は、日光浴や歌、掃除など、それぞれの楽しみを職員と共にしたり、任されたりして日々過ごし、持ち人その人の利用者の様子に関心を寄せ見守りながら、尊厳を守り共に生き支えあえるよう日々の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や、ふとした表情から利用者の様子を読み取り、全職員職員はホームでの思い出を、家族は自宅での思い出をそれぞれ写し、写真ブックとしてまとめ、利用者の大事な宝物となっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1人ひとりに担当者が決められ、日々の気づきや発見を日報に記録することにより、介護計画作成に役立っている。利用者の思いや家族の要望や意向も盛り込まれ、また、主治医や看護師の意見も取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則として3ヶ月毎に見直しを行い、毎月の職員会議や随時行う小規模なケア会議でも柔軟に話し合い、現状に即した対応や見直しを行っている。急変時や必要時には家族に相談を行い、その都度確認をしてもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算は取っていないが、同法人内の訪問看護ステーションの看護師がこまめに体調管理を行っている。地域住民からの相談にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月に2回の往診があり、24時間の連携体制を取っている。皮膚科や整形外科には、利用者・家族の希望に応じ、職員が同行している。ホームには看護師が配置され、受診内容の把握や服薬管理などの支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りはしない方針ではあるが、代表者・管理者は重度化はケアの延長線上にあることを認識している。現時点でのホームの状況や職員の力量などを鑑み、終末期に対しては指針・方向などを慎重に話し合う計画をしている。	○	入居の条件や重度化、終末期ケアについて明確な判断基準が必要と思われる。看取りはしない方針であっても、そこに至るまでも様々なケースが考えられ、ホームとしての判断が求められる。主治医との意思の疎通を図り、家族との同意書・対応手順やマニュアルなどを作成されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録や家族との面談記録は、人目に触れない場所に保管しており、個人情報の管理には留意している。日々のケアは目立たずさりげなく行うことを心がけ、その人の尊厳を尊重した支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は自由に任せているが、食事時は全員が席につき、声を揃えて「いただきます」と食事を開始している。職員の強制でなく、利用者同士のあうんの呼吸で始められた。就寝時間も自由であり、眠れない人は心ゆくまでリビングで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はその能力や得意なことを活かし、食事の下ごしらえや皮むきに精を出す人も多い。ホームの前にある広い畑で有機野菜を作り、その取れたての新鮮野菜が食卓を賑わしている。職員も同じテーブルに付き、介助や見守りをしながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2~3回、職員の調整をしながら日中に行っている。限られた時間の中、利用者にとって入浴が1日の楽しみとなるよう、入浴の順番にも配慮して柔軟に支援をしている。利用者が重度化した時の入浴の対応を今から検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割・責任感・習慣等が、加齢や認知症による機能低下を防ぐことを代表者や管理者は深く認識しており、趣味や好きなことを見出して生活の中で活かす努力をしている。廊下と居室の手すり拭きを毎日行い、仕事として張り合いを持って過ごしている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候に合わせ、ホーム前の外周約100mの歩道を歩いたり、庭に置かれたベンチに座って四季の移ろいを感じられるような支援を行っている。外食は月に1度、利用者の希望を募って行っている。歩ける人は地域の散歩コースに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を代表者と管理者は認識しており、日中の玄関に鍵はかけられていない。職員の見守りと心配りによって利用者は落ち着いており、現在出て行く人はいないが、もしもの場合に備え常に話し合い、職員がそっと付き添える体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の実施のみでなく、職員の参集や役割分担もあらかじめ決めてある。利用者と職員で行うミニ訓練も行っている。食料・飲料水・おむつなどの備蓄も行い、様々な災害を想定・仮定した対策を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日記録され、利用者個々の体調が一目で分かるようになっている。無農薬の有機野菜を使用した献立に利用者希望の肉や魚を取り入れて、厨房専門の職員が刻みやペースト・柔らかめにも対応し作っている。水分も自由に飲めるよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がどの場所でも自由に過ごす時間が持てるよう、玄関前や100坪にも渡る広い庭にベンチが置かれ、庭の花や畑の野菜達が利用者の心を癒してくれている。南に面したりリビングには明るい光が射し、2ユニット間は自由に行き来でき、浴室・トイレもプライバシーに配慮した造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のベッドやタンスはホームのものであるが、家族・孫の写真や孫が作ったはり絵、本人手作りの手芸品を飾ったり、使い慣れた椅子等が持ち込まれており、おのおのが使いやすいように個性ある部屋となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。